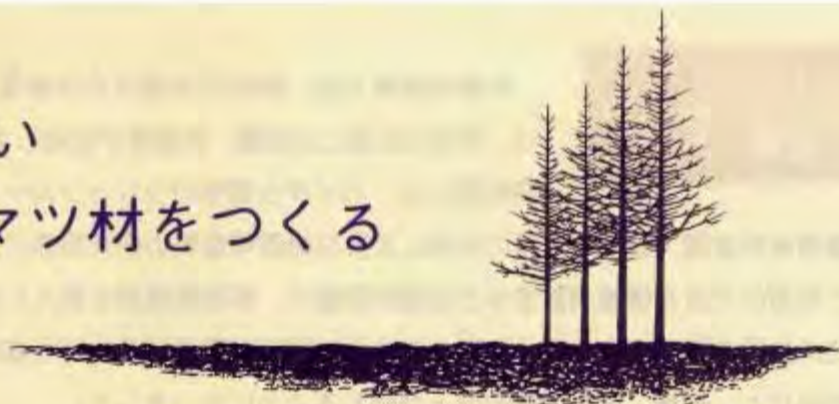


品質のよい

カラマツ材をつくる



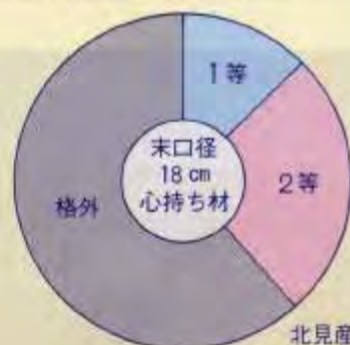
品質のよい材とは大径・通直で節のないものです。大径材からはねじれ、割れの少ない心去り材が得られますし、通直な材からは質のよい製材が得られます。

優良大径材をつくるためには、

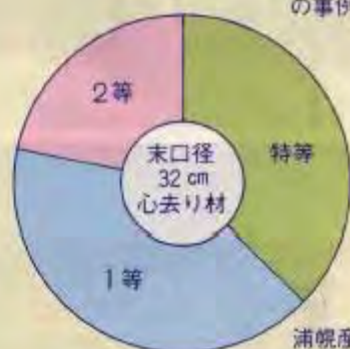
- 地位により異なりますが、おおむね10年～15年頃から間伐を始めます。
- 立て木と競合する木を間伐します。
- 曲がりの大きい木や形質のよくないものから間伐します。

さらに、付加価値を高めるためには、

- 胸高直径が10cm程度になったら枝打ちを始めます。
- 立て木を対象に枝打ちします。
- 枝打ち高は樹高の半分までとします。
- できるだけ枝を残さず、幹と平滑になるように枝打ちします。



北見産22年生の事例



浦幌産40年生の事例

図は中小径材と大径材から得られた10.5cmの正角のJASによる品等別割合を示しています。

